

でよりも、借りたる黄金の絨も解かねば、封じたるまゝを、その人に返して、予はその許を試しぞとて、ますく厚く交はりぬ。

〔先哲叢談後編六〕南宮大湫

大湫與同門之士紀平洲情交尤密、平洲既離郷里、遊于江戸、下帷教授、屢投書牘、勸大湫東下而仕諸侯、大湫官遊平安、又之美濃岐阜之伊勢桑名之松阪、漫遊數年、東西相隔、不啻參商、不相見殆二十餘年、明和中始來江戸、寓平洲濱街道士井家、二十五日、移往其僑居焉、其訪平洲初、情話無期、悲歡交臻、談舊之外、又無他事、平洲爲之稱有疾、謝來客、息講業十餘日、無暮無朝、語言一室、若引緒抽繭、縷々不盡、其寓塾生私語曰、二先生二十年相思之情、抑鬱之久、至於今日、發爲狂病。

薦舉 知遇 不遇 併入

薦舉ハ、多ク己ノ子弟、若シクハ弟子、朋友等ヲ推薦スルヲ以テ常トスレドモ、或ハ自薦シ、或ハ又公ノ爲ニ己ニ快カラザルモノヲモ、推舉スル事アリテ一ナラズ、而シテ薦舉ノ事ハ、尙ホ政治部上編ニ在リ、宜シク參看スベシ。

名稱

薦己子

〔伊呂波字類抄世疊字〕薦舉

〔今昔物語 二十四〕大江匡衡妻赤染讀和歌語第五十一

舉周ガ官望ケル時ニ、母ノ赤染鷹司殿○藤原道長妻倫子ニ此ナム讀テ奉タリケル、

オモヘキミカシラノ雪ヲウチハラヒキエヌサキニトイソグ心ヲト御堂○藤原道長此歌ヲ御覽

シテ、極ク哀ガラセ給テ、此ク和泉守ニハ成サセ給ヘル也ケリ、

〔藩翰譜五板倉〕勝重○板倉きりに職を辭しけるに、將軍家今暫くかくて候へ、いまだ汝に代りて、此